





国 語 問 題

はじめに、これを読むこと。

(注意事項)

1. この問題用紙は十七ページまでである。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙の所定の欄に、必ず氏名を記入すること。
3. 解答用紙には受験番号が印刷されているので、受験番号が正しいかどうか受験票と照合して確認すること。
4. 解答はすべて「解答用紙」の解答欄に記入またはマークすること。解答欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
6. 訂正は消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
7. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
8. 文字は楷書で正確に書くこと。
9. 解答用紙は持ちかえらないこと。
10. この問題用紙は必ず持ちかえること。
11. 試験時間は六十分である。

(マークの記入例)

良い例	悪い例
	  

(一) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

政治や企業活動と地域社会の違いは、専従のリーダーがいらないことである。政治のプロフェッショナル、つまりは職業政治家、ならびに専従の経営者にあたるものが存在しない。(中略) 地方議会の議員がそれにあたるはずであったのだが、町内会や婦人会、商店街の振興会や社会福祉協議会などといった、選挙での集票機能をもった既存の団体とのパイプを使うばかりで、都市部であらたに動きだしたNPOやボランティアといった新しい市民のネットワークにうまく対応もしくは連携がとれていない大方の地方議員は、残念ながら地域社会の十全な力になっているとはとてもいえない。地方議員のこの無力は、市民に力がついできたからではなく、逆に、政治のプロ(であるはずのひとたち)への市民の「おまかせ」構造がますます昂じてきた結果なのである。

社会がいやでも縮小してゆく時代、「塵」炉とか「ダウン」サイジングなどが課題として立つてくるところでは、先頭で道を切り開いてゆくひとよりも、むしろ最後尾でみなを確認しつつ進む登山グループの「しんがり」のような存在、退却戦で敵のいちばん近くにいて、味方の安全を確認してから最後に引き上げるような「しんがり」の判断が、もっとも重要になってくる。じつさい、震災復興にあつても、ひたすら「防災」のためのハード面での公共事業に取り組むのではなく、地域が震災前から抱え込んでいた問題を見据えながら、そこでの日々の暮らしを創造的に再興する取り組みと結びついた経済活性化策を講じなければならぬだろうし、またもしそうした社会全体への気遣いや目配りができていけば、建築資材と労賃の高騰を招くことで東北での復興事業を大きく遅延させることが必定な「東京五輪」の誘致など、だれも発想しなかつただろう。こういう全体の気遣いこそほんとうのプロフェッショナルが備えていなければならないものであり、またよきフォロワーシップの心得というべきものである。そしてこうした心得を、ここで《しんがりの思想》と呼んでみたい。

リーダーがその「しんがり」の務めに戻るべきときがいま来ている。ダウンサイジングという、「右肩上がり」の時代のリーダーたちがいちばん不得手な難問が山積しているという状況が目の前にある。

「a 世 b 民」(political economy)の「エコノミー」という語が、ギリシャ語の「オイコノミア」(家政)からきて

るように、国家財政というのは家計とよく似ている。そもそもどの経費を削るか、どこを膨らましてどこを圧縮するか、何に当座は金を向け、何を後に回すか……。思案のしどころである。国家財政においても家計においても。そしてこれはもつとも頭を使うところでもある。パイは決まっている。一人ひとりの願いを聞き届ければ、家計は破綻する。借金は家訓により御法度だ。だからまず無駄を省くことを考える。けれどもそれにも限界がある。切り捨てを決断しなければならぬものがあるのはあきらみだ。けれどもいきなり切り捨てを申し渡して、せっかくのやる気を殺ぐのは忍びない。後に回す、あるいは眼をつむって切り捨てるにも、きちんとした理由をあげて、相手を納得させねばならない。そこであげるべき理由は何か、もつべき「未来像」は何か……。

ここにきて、財布を握る主婦ないしは主夫ははたと考え込む。優先順位を決めるにあたっての理屈を考えなければならなくなるのだ。我慢を求めるためには、きちんとした説得の言葉が必要だ。相手に納得させるにはしっかりと「思想」が要る。「思想」という言葉が仰々しければ、「家族生活の基本となる考え方」と言ってもいい。あるいは価値の軽重と先後、つまりは「価値のc」と言ってもいい。そして何かをしきりにねだっていた子どもも、こういうことも考えないといけないのだというふう

に、事の複雑さを知るようになる。
c かつてひとびとが極度に貧しいときには、理屈は必要なかった。まずはいのちをつなぐこと、生きなから存ぞんえること、これが原点であることが明確であった。子どもが何かねだっても、「これがあつたら家族みんなが数日間、食べられますからね」と言われれば、子どもは黙るほかなかった。あるていどの融通が利くほどに豊かになると、子どもは「あの子は買ってもらったのに、それに較べうちの親は愛情が薄い」というふうふうに不満を溜め込むようになる。

「限界」を意識するのは、この意味で大事なことである。ここを超えると危険水域に入るといいう臨界点を知ること。これがいのちをつなぐためにもつとも重要なことだ。「限界」を見させまいとすることは、子どもの心を傷つけないという思いからのことだろうが、いずれ子どもをより大きな危機にさらすことになる。しかし、「限界」はよほど眼をこらさないと見えない。眼をこらす

というのは、じぶんがどういう状況にあるかを一步退いて見ることに、つまりは惰性を脱する行為だからだ。

日本人は寡栄養に強く、過栄養に弱いと、肝臓疾患の専門医から聞いたことがある。どういふことかというところ、日本人の身体は体内に採り入れた少ない脂肪を数日間うまく使つて飢えを凌ぐのには向いているが、栄養過多に対して脂肪を減らす機能がなないといふことらしい。だからこのところ、肝脂肪が原因で肝臓ガンになるひとがじわりじわり増えているといふ。そういう意味でも、減らすといふのはほんとうにむずかしい。ご馳走があるのに、途中でやめるといふのはむずかしい。便利な物をあえて使わないといふのもむずかしい。何かある事業を立ち上げるために別の事業をやめるといふのもむずかしい。「足るを知る」。言葉はやさしいが、それを実行するのはむずかしい。このことがわたしたちの社会構造についてもいえるとするなら、「足るを知る」といふ古人の知恵、いかえるとダウンサイジングといふメンタリティに、いまだれよりも近いところにいるのが、といふか、そうならざるをえない場所へいちばん先にはじき出されたのが、いまの若い世代なのかもしれない。骨の髄まで「成長」幻想に染められているそれ以前の世代には、

 といふ

 が

 には映らないからである。ダウンサイジングといふメンタリティにもっとも遠い世代のリーダー像では、縮小してゆく社会には対応できないのだ。

この国は本気で「退却戦」を考えなければならぬ時代に入りつつある。そのときリーダーの任に堪えるのは、もはや引つ張つてゆくタイプのリーダーではない。それは「右肩上がり」の時代にしか通用しないリーダー像だ。これに対して、ダウンサイジングの時代に求められるのは、いつてみれば「しんがり」のマインドである。

「しんがり」とはいふまでもなく、合戦で劣勢に立たされ退却を余儀なくされたときに、隊列の最後部を務める部隊のことである。彼らが担うのは、敵の追撃に遭つて本隊を先に安全な場所まで退却させるために、限られた軍勢で敵の追撃を阻止し、味方の犠牲を最小限に食い止める、きわめて危険な任務である。(中略)

あるいは、登山のパーティーで最後尾を務めるひと。経験と判断力と体力にもっとも秀でたひとがその任に就くといふ。一番手が「しんがり」を務める。二番手は先頭に立つ。そしてもっとも経験と体力に劣る者が先頭の真後ろにつき、先頭はそのひとの息づかいや気配を背中であつかいながら歩行のペースを決めるといふ。要は「しんがり」だけが隊列の全体を見ることができるといふ。

ーテイの全員の後ろ姿を見ることが出来る。そして隊員がよろけたり脚を踏み外したりしたとき、間髪おかず救助にあたる。

じつさい右肩下がりの時代、「廃」炉とかダウンサイジングなどが課題として立ってくるころでは、先頭で道を切り開いてゆくひとよりも、このように最後尾でみなの方を確保しつつ進む登山隊の「しんがり」のような存在、仲間の安全を確認してから最後に引き上げる「しんがり」の判断が、もつとも重要になってくる。だれかに、あるいは特定の業界に、犠牲が集中していないか、リーダーは張り切りすぎでみなついてゆくのには四苦八苦しているのではないか、そろそろどこから悲鳴が上がらないか、このままではたしてもつか……といった全体のケア、各所への気遣いと、そこでの周知な判断こそ、縮小してゆく社会において、リーダーが備えていなければならないマインドなのである。

(鷺田清一『しんがりの思想』による)

問一 傍線部A『しんがり』の判断』とあるが、どのような判断か。本文中の語句を用い、三十六字〜四十字(句読点も一字と数える)で記せ。

問二 傍線部B『右肩上がり』の時代のリーダーたちがいちばん不得手な難問』とあるが、そう言える理由として最も適切なものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 その時代のリーダーたちには「しんがり」の思想を持った人物が一人もいなかったから。
- 2 その時代のリーダー像は本来のリーダー像からかけ離れた、幻想の中の存在だったから。
- 3 その時代のリーダーたちはダウンサイジングのメンタリティを持つ必要がなかったから。
- 4 その時代のリーダーは、登山の場合とは違い、しんがりが一番手と二番手を務めたから。
- 5 その時代のリーダーたちにとっては「右肩下がり」こそ最も憂慮すべき問題だったから。

問三 空欄

a

b

に入る漢字を本文中から一字ずつ選んで記せ。

問四 空欄

c

に入る語句として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 思考法
- 2 遠近法
- 3 多様化
- 4 具体化
- 5 局所性

問五 傍線部C「かつてひとびとが極度に貧しいときには、理屈は必要なかった」とあるが、その理由として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 当時、何が一番大切かを知るのはむずかしいことではなかったから。
- 2 当時、生きることは「足るを知る」ことだと子どもも理解したから。
- 3 当時は目をこらしても世の中の真実を見ることができなかったから。
- 4 当時、子どもは母親の言うことばに従わなければならなかったから。
- 5 当時は「限界」を意識すること自体が生きることの意味だったから。

問六 傍線部D「惰性を脱する行為」とはここではどのような行為のことか。最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 その場その場の状況を適切に把握すること
- 2 力の限界を理解して最善の策を見出すこと
- 3 物事の臨界点を知って、一步踏み出すこと
- 4 いのちをつなぐために必要な物を探すこと
- 5 危険水域を的確に認識し、距離を置くこと

問七 空欄

く

に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号を

マークせよ。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|
| 1 | d | 寡栄養 | e | 自然 | f | 自然 |
| 2 | d | 過栄養 | e | 自然 | f | 自然 |
| 3 | d | 寡栄養 | e | 不自然 | f | 自然 |
| 4 | d | 過栄養 | e | 不自然 | f | 不自然 |
| 5 | d | 寡栄養 | e | 不自然 | f | 不自然 |

(二) 次の文章を読み、後の問に答えよ。

現代社会では、労働力の管理はほぼ極限まで完成している。その人の仕事が学者や芸術ジャンルのものであっても、当人すら自分の評価を金で測るようになっていく。それどころか今や、消費もほとんどは他者に管理されている。私はネットでモノを買うのにためらいがあるのだが、それは自分の消費傾向までが管理され、勝手に「オススメ」を表示されるのに違和感があるためだ。役に立つのが、なお癪である。「私」の何もかもが、他人に管理されているようで息苦しい。それならむしろ、昔ながらのご近所づきあいの面倒臭さのほうが、干渉が緩やかだったのではないかと思われるくらいだ。

現代日本で能力主義がきちんと機能しているかどうか怪しいものだが、完璧に機能していると仮定しても、それ自体の怪しさは消えない。能力主義がいう「能力」とは他人にとっての有用性だ。もちろん人は誰でも他人の生産物の恩恵を受けて生活しているので、自分も他人のために役に立って、はじめてフィフティフィティの関係になる基盤ができる。しかし現代社会では、個人対個人でやりとりをするような関係のなかで生まれる富は高が知れている。したがって「有能性」は組織に大きな利益をもたらしたか否かで測られることになる。それは人間の身体や知性そのものが、利用価値のみ測られる対象物として、企業なり国家なりが自己に都合のよい形で管理して、そこから利潤を得ることを前提としての「有能」であり「能力」なのであって、存在それ自体が評価されることはない。これはスポーツ選手や発明家や作家であつても同様だ。近年の国民栄誉賞の与え方などは、対象への敬意ではなく政権にとつての宣伝効果を優先しているとの印象が否めない。

このように人間の生産性は利用価値で測られ、管理されている。さらには消費すらも、表面上は消費者の利便性を謳いながら、けっきよくは企業側の効率的な量産システムに従属させられる形で、人々の生活に組み込まれるようになっていく。

生活のあらゆる場面は、私的な人間関係ではなく、「誰でも平等な」経済関係が支配するようになっていく。現代の生活が「金がかかる」のはそのためだ。

たとえば自分の家の庭先でナスを作り、お隣さんが作ったトマトと相互におすそ分けをし合えば、そこには金はかからない。

全体の生産性は低くても、あいだに企業や流通が介入しない分、消費コストは低くて済む。昔の田舎暮らしの基本はこれだった。それはもちろん、濃密な人間関係、頻繁にある共同体の付き合いと一体だった。前近代的な人間関係は、濃密な分、とても煩わしい。関係の近代化は、そうした煩わしく非効率的な関係を切り捨て、金を払うことによって、自分の望むものを効率的に取得するようにして、自己の時間を買ひ、それによって自身の生産効率を高めるといふ方向に進化させてきた。そして消費経費もまた否応なく拡大した。現代生活が「金がかかる」のはそのためだ。

そんな世の中で、金がないのは本当につらい。だが、そのような管理された労働、管理された消費を、完全に離脱することは無理だとしても、少しずらしてみることくらいはできないものか。

「金を使わないなら気を遣え」あるいは「金を惜しんで手間を惜しむな」とは、昔から街場ではよくいわれたことである。金の不足は気遣いや自他の手間によって補う。つまり自分自身や身近な知人の手助けで補われる。だが人と人の関係は相互扶助を基本としている。一方的な依存は長続きしないので、「結」のような古い共同体の互助システムでは、助けてもらったら自分もお返しをするのが原則だ。この場合のお返しは、必ずしも出世払いで金を返すとか、モノを贈るとかに限らない。ちよつとしたお返しを務めるとか、世話になったひとの家の周りを掃除するとか、気は心でやれることをするのだ。

そういうことを話したら、まるで家来になったような気がするといった人がいたのだが、私の感覚はまったく逆で、もらいっぱなししていると人間として品位が低くなると思う。できることでお返しをしようとする相手に対しては、先方が主人のようにふるまうことはなく、ちゃんとしたひとならむしろ恐縮してくれるはずだ。そして、また困ったときには助けてあげたいと思ってくれる。落語でお馴染みの店子なこと大家の関係や素封家そほうかと小作人の関係は、家賃や小作料という経済関係を基調としながらも、そのうえに人間的結びつきがあったから、小言をいいながらも家賃を待ったり、仕事口を紹介したり、時には金を貸してくれたりしたのである。

まずは親戚づきあいをきちんとすること。そして隣近所を大切にすること。無業で時間があるなら、親戚に時候挨拶の手紙を書き、自宅の前を掃除するついでに隣近所の前も掃いてあげよう。そうすれば何かの折に助けてくれる人が増える。^c他人のため

に何かをすれば、いずれ他人はあなたに何かしてくれると思う。「自分にできること」を他人に無償で提供するのには、功利的にいえば「自分にできること」のデモンストレーション^①だが、もちろん心から他人に対する親切として行なうのであれば、なお気高い。貧しい生活が続いたとしても、人品は賤しくならないはずだ。

金がすべてではないだろうという気持が、私にはある。高学歴ワーキングプア問題で、努力が報われないのはリフジン^②と感じながらも「学歴に見合った職(収入)」という主張を一直線には受け入れられないのも、そのためだ。金に換算されるものだけが、すべてではないはずだ。(中略)就活生は就職試験に落ちると、自分の人格が否定されたように感じるらしいが、しかし「あなた自身の本来の価値は『その会社で役立つか』という利用価値にあるわけではなく、存在そのものにあるのだ」といつてあげたくなる。いったところで、何の役にも立たないかもしれないが。

昔から「金が敵の世の中よ」とくれば「早く敵にめぐり逢いたい」と続けるのがソウバと決まっているが、私はそれをしたくない。こちらがそういう気持で金に近づいたら、取り込まれて返り討ちにあうのは目に見えている。その意味では、あるニートが口にした「働いたら負けだと思ふ」という気持も分かる気がする。しかし金に支配されるのはいやでも、他人のために役立つ存在でありたいという人情まで捨ててしまったら、やはり人間らしくは生きられない。「人間的に働く」ことのジレンマがここにある。消費を最低限に切り詰めても、やはり生きていくということとは他人の恩恵を蒙り、自然から多くを奪う営為にはかならない。

私が(中略)述べていることは、理屈になっていないかもしれない。合理的ではないかもしれない。しかしニート状態に陥ってしまった人々の気持をどうすれば浮上させられるかという課題は、そもそも損得勘定を示しての合理的な対処だけでは解決しない面があると私は感じている。

市場経済の無慈悲さも、行政による個人の全面的な管理・支配も、人間を傷つける。しかし市場経済の利便性や政府による秩序構成の恩恵がなければ、今のわれわれの「豊かな生活」はない(「豊かな生活」というのは別に皮肉ではなく、今現在、働いていなくても生きていられるのだとしたら、それは歴史的に見たら十分に「豊か」なのだ)。だから市場経済と政府の存在を肯定的に

前提としながら、自己の人間性の回復をはかれる身辺的な場所に、自己の最低限の生活を持続し得る基盤を設ける努力も怠つてはならない。グローバリズムの時代だからこそ、「私」の身辺性が重要になる。グローバリズムの魅力が欲望喚起と利便性にあるのに対して、身辺性の^{〔注〕}パルチザンが武器とするのは無欲と気遣いである。

われわれが生きている社会の困難は、決められないままでは乗り越えられず、決めつけての猪突猛進でも行き詰まるおそれ大きい。確固たるもののない時代を生きるには、決めつつ疑い、改めた後も迷い、そしておぼろげながらも進むということを繰り返していくほかない。

〔長山靖生「若者はなぜ『決めつける』のか——壊れゆく社会を生き抜く思考」による〕

〔注〕 パルチザン——労働者・農民などで組織された非正規軍。遊撃隊。

問一 傍線部①の漢字の読みをひらがなで記せ。

問二 傍線部②③のカタカナの部分に漢字に改めよ。

問三 傍線部A「それ自体の怪しさは消えない」とあるが、その説明として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その

符号をマークせよ。

- 1 日本に真の能力主義が定着しているとは言えず、いまだに「能力」の測り方が信頼されていないということ。
- 2 日本社会では労働力の管理が徹底しているため、今後も能力主義が中心となることはないだろうということ。
- 3 現代の社会システムでは能力主義が完璧ということはあり得ず、その機能はかなり限定的であるということ。
- 4 能力主義を発揮するための個々人の「能力」がいかに利潤に結びつくかの査定法が熟していないということ。
- 5 能力主義と言いながらも利用価値を重要視し、その人の有用性を評価するまでには至っていないということ。

問四 傍線部B「まるで家来になったような気がする」とあるが、それはどのように感じるのか。最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 一方的な依存は長続きしないので、出世払いで恩を返せるとは限らない。
- 2 人から恩恵を受ける代償として働くのは、自分を賤しめることにつうじる。
- 3 お使いをしたり家の周りを掃除したりするのは、金のないことの証である。
- 4 対等でない経済的主従関係を基調とすることになり、命令をきかざるをえない。
- 5 もらいつばなしのまま相手に金品を与えないと、生涯うしろめたさから逃れられない。

問五 傍線部C「他人のために何かをすれば、いずれ他人はあなたに何かしてくれる」とあるが、ほぼ同じ内容を表したことわざ・慣用句として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 他山の石
- 2 近所に事なかれ
- 3 金は天下の回りもの
- 4 情けは人のためならず
- 5 袖振り合うも多生の縁

問六 傍線部D「あるニートが口にした『働いたら負けだと思う』という気持」とあるが、その具体的説明として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 働くということは、結局は金に振り回されるようになることだから、あえて働かずになりたい。
- 2 いずれ一旗揚げ、これまで自分という存在を必要としてこなかった社会を見返してやりたい。
- 3 現代社会において金のないのはつらいことだが、親兄弟から自由でいられる方がずっといい。
- 4 社会のしがらみにまみれずに来たのだから、これからも気高い生き方を貫き通していきたい。
- 5 労働によって学歴社会に荷担するくらいならば、むしろ貧乏生活に甘んじるほうを選びたい。

問七 傍線部E「自己の人間性の回復をはかれる身辺的な場所に、自己の最低限の生活を持続し得る基盤を設ける」とあるが、その例として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

- 1 ジムに通い身体を鍛え、自分の気に入った家具・電化製品・小物だけに囲まれた生活をする。
- 2 趣味のサッカーで毎週末に息抜きをすることが出来るように、休暇を取りやすい職場で働く。
- 3 都会の人々のためにコンビニを出店し、その地域の需要に応えるために身を粉にして尽くす。
- 4 デジタル社会の恩恵に浴していることを認めつつ、ネットショッピングを最小限に抑制する。
- 5 郷里の親戚や友人達との交流を絶やさず、地元の中小企業で食べていけるだけの収入を得る。

問八 本文の主張と合致するものを次の1〜5の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

1 効率や経済関係が重視される現代は、助けてもらったらお返しをするという人間関係が失われており、人々は人間の品位が賤しくなったと感じている。

2 前近代的な人間関係は濃密でわずらわしいが、グローバリズムにより人間関係が希薄になりすぎた現代では、できるかぎり前近代に戻るよう努力することが重要である。

3 現代社会では、個々人の価値が重視されず人間性が疎外されている。こうした現状を改善するためには、例えば相互扶助を基本とした身近な人間的結びつきが必要である。

4 他人のために何かをすれば、いつか他人が助けてくれるものである。システムで労働力や消費を管理するのは誤りで、現代社会に最も必要なのは人間の思いやりの気持ちである。

5 おすそ分けのシステムはあいだに企業や流通が入らないので消費コストが安いというメリットがある。このように前近代的システムの中にこそ現代社会にふさわしいものがある。

(三) 次の文章は藤原清輔「袋草紙」の一節である。これを読み、後の問に答えよ。

中院右府入道の許に参りて清談の次の日、故将作常に申されて云はく、「物においては肝心を見るべきなり。後撰には、「なき名ぞと人には云ひてありぬべし心のとはばいかかこたへん」、また、「絵にかける鳥とも人をみてしがな同じ所を常に飛ぶべく」、これ等かの集の a なり」と云々。また云はく、「歌よみは万葉よく取るまでなり。これを心得てよく b を歌読とす」と云々。

京極大殿の御時、宇県(注3)に白川院の御幸有り。余興尽きざるによりて、今一日逗留すべきの由を申さる。而れども明日還御有らば、花洛(注4)×(注5)太白の方に当れり。宇治は京より南に当れり。故にこれをなすこと如何と、殿下遺恨をいだけり。而して行家朝臣申して云はく、「宇治は花洛の南に当らず。喜撰の歌に云はく、

わが庵は都のたつみしかぞすむ世をうち山(注C)と人はいふなり

然れば何の憚り候はんや」と。殿下この由をもつて院に奏聞す。仍りて還御延引したまふ。殿下甚だ感気有り。人また美談となすと云々。ある人云はく、「喜撰が住所は宇治にとりて東の終(注D)と云々。尤も巽(注E)の方に当るべきか。

新院位に御す時、中宮の御方において殿上人等小弓の事有り。物書かざる造紙をもつて懸物に出ださる。その表紙に書きて云はく、

あとなきことのとこそみれ

元忘却す

これ殿下の御作と云へり。人々不審の気有り。而して資仲卿云はく、「これ拾遺抄に侍る事か。小野宮右大臣幼童の時、馬内侍の許に渡りて小弓を射給ふに、物書かざる造紙を懸物に出だす。而して翌日清慎公(注8)の送れる歌に云はく、

いづれかとあけてみたらば浜千鳥あどあることにあとのなきかな

もしこの意か」と云々。曩祖(注9)の事覚悟の条、興有るの由人々感歎すと云々。かくの如き事、時に臨みて覚悟し難き事なり。

〈注1〉 中院右府入道——源雅定。

〈注2〉 故将作——藤原清輔の祖父、顕季。

〈注3〉 宇県——宇治(現在の京都府宇治市)をさす。

〈注4〉 花洛——京の都。

〈注5〉 太白——陰陽道の方角禁忌神の一つで太白神をいう。ここでは北の方角をさす。

〈注6〉 小野宮右大臣——藤原実資。

〈注7〉 馬内侍——平安時代中期の女房歌人。

〈注8〉 清慎公——藤原実頼。

〈注9〉 曩祖のうそ——先祖のこと。

問一 傍線部A「人をみてしがな」を現代語訳せよ。

問二 空欄 a に入る語として最も適切なものを本文中から二字で抜き出して記せ。

問三 空欄 b に入る語として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 有る | 2 | 歩く | 3 | 問ふ | 4 | 盗む | 5 | 見る |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|

問四 傍線部B「殿下遺恨をいだけり」とあるが、「殿下」はなぜそのように思ったのか。最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 南の方角が吉であるという理由で宇治への御幸を敢行した白川院にはじめから反感を持っていたため。
- 2 南の方角が吉である今日のうちに還御しようとする周囲の姿勢から、暗に余興への不満を感じたため。
- 3 宇治は実際には京の南にはあたらないので、明日の還御をどのように行うべきか分からなかったため。
- 4 宇治の方角が京の南にあたるからといって、白川院の還御を延期することには納得できなかったため。
- 5 宇治は京の南だから明日は方角が不吉だという理由で急いで還御するのは残念であると思われたため。

問五 傍線部C「たつみ」の方角として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 東
- 2 南東
- 3 南
- 4 南西
- 5 西

問六 傍線部D「うぢ山」には掛詞が含まれているが、何と何が掛けられているか、それぞれ二字で記せ。

問七 傍線部E「人また美談となす」とあるが、その理由として最も適切なものを、本文中から十五字以内で抜き出して記せ。

問八 傍線部F「あと」の意味として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 事跡
- 2 名跡
- 3 筆跡
- 4 史跡
- 5 奇跡

問九 傍線部G「人々不審の氣有り」の説明として最も適切なものを次の1～5の中から一つ選び、その符合をマークせよ。

- 1 人々からは計り知れない不気味さがうかがえた。
- 2 人々は殿下の行為に不快感を持つようになった。
- 3 人々は殿下に対して、あらぬ疑いをかけていた。
- 4 人々には殿下の意図する所が理解できなかった。
- 5 人々は殿下に向けて、不穏な気配を見せていた。

